

統合失調症治療において Quality of Life の改善は重要な指標であるが、その神経基盤は明らかではない。今回われわれは 統合失調症の 客観的 QOL に脳形態変化が与える影響を 33 名の統合失調症患者群及び 42 名の 健常群を対象とし、MRI 画像からの定量的局所体積評価方法である Voxel-based Morphometry によって検討した。患者群では前頭皮質を中心とした広汎な領域の灰白質体積減少を認めた。この領域内において、QOL のそれぞれの 下位尺度と局所灰白質体積の相関を調べたところ、客観的 QOL 「社会的役割」下位得点と右前島皮質灰白質体積が有意に相関すること、ならびに陰性症状がこの相関を媒介することが見出された。本研究結果は主観的 QOL と関連する脳領域および症状について検討したわれわれの先行研究結果とは異なり、両者の神経基盤がその局在において異なる可能性が示唆された。

統合失調症群での灰白質体積減少部位（左）と
同群での灰白質体積と QOL サブスケール「社会的役割」との相関（右）

